資料3

人口要件を満たさなくなった離島地域の検討（対象地域の点検結果について整理）

離島指定検討部会における検討事項

（令和５年５月２４日　第22回国土審議会離島振興対策分科会）

離島振興対策実施地域の指定解除のあり方等について

検討内容１　架橋に伴う指定解除のあり方

○ 改正離島振興法の附帯決議を踏まえ、離島指定検討部会において、離島と本土の間に架橋が整備された際の地域の実情に配慮した指定解除のあり方について検討する。

検討内容２　人口要件を満たさなくなった離島地域の検討

○ 令和２年国勢調査の結果、人口要件（おおむね50人以上）を下回っている離島振興対策実施地域（10地域）について、離島指定検討部会において、今後の離島振興方針等を点検※し、指定解除の停止の妥当性を検討する。

※点検にあたっては、改正離島振興法や人口減少等の離島を取り巻く現状を踏まえて、現地調査、ヒアリング等を予定。

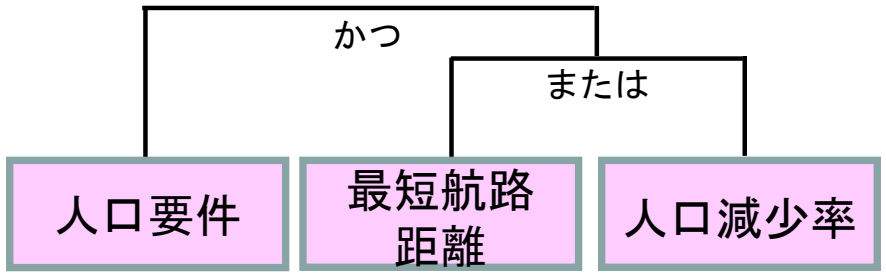
離島振興対策実施地域の指定基準について（H25見直し）

○　離島振興対策実施地域は、離島振興法第2条に基づき主務大臣（国土交通大臣、総務大臣、農林水産大臣）が国土審議会の意見を聴いて、同法第１条の目的を達成するために必要と認める離島の地域の全部又は一部を指定。

○　現行の離島指定基準は、第10回離島振興対策分科会（平成25年４月11日）において見直されたもの。

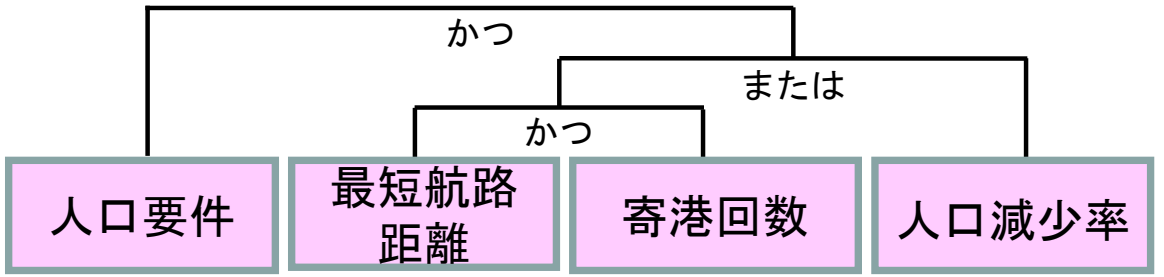
【離島指定基準の概念図　※国土審議会　第10回離島振興対策分科会（平成25年４月11日）了承　】

外海指定基準（一部離島）



おおむね50人以上　おおむね５km以上　おおむね１０％以上
（直近10年国勢調査結果）

内海・内水面指定基準



おおむね50人以上　おおむね５km以上　おおむね６回以下　おおむね１０％以上
（直近10年国勢調査結果）

○見直し後の指定基準の運用に関する留意事項

1　指定済み離島について、人口要件を満たさなくなった場合においても、今後の振興の方針等を確認のうえ、指定解除について停止することを検討する。

2　常時陸上交通が確保された離島について、指定解除を検討する。

3　未指定離島の新たな指定にあたっては、各基準を満たしていることを確認したうえで、寄港回数・最短航路距離等の交通条件や社会経済状況などを総合的に判断し、離島振興法第１条の目的に沿うよう行う。

H25以降新たに指定・解除となった離島

○追加指定（7島）

H25.7：沖島（滋賀県）、前島（岡山県）、似島（広島県）、小豆島・沖之島（香川県）、興居島（愛媛県）

H27.7：大島（香川県）

○指定解除（6島）

H27.4：淡路島（兵庫県）※常時陸上交通の確保、高島（島根県）※無人島

H29.4：鹿久居島・頭島（岡山県）※離島架橋整備

H30.4：九島（愛媛県）※離島架橋整備

R03.4：大島（宮城県）※離島架橋整備

離島振興対策実施地域における点検対象

〇離島振興対策実施地域77地域のうち、第9回離島指定検討部会で定めた点検の対象となる離島地域は10地域。

都道県名	指定地域名	島名	市町名	人口（H22）	人口（H27）	人口（R2）		人口減少率（H22→R2）	外海全部 外海一部 内海	寄港回数（回／日）	航路距離（km）	H27国勢調査に基づく点検結果
北海道	小島（こじま）	小島（こじま）	厚岸町	13人	12人	8人		38.5%	外海一部	-	-	猶予
岡山県	犬島（いぬじま）	犬島（いぬじま）	岡山市	54人	44人	36人		33.3%	内海	6～8	2.5	猶予
	児島諸島（こじま）	松島（まつしま）	倉敷市	3人	3人	4人	10人	23.1%	内海	-	-	猶予
		六口島（むぐちじま）	〃	10人	7人	6人			内海	-	-	
広島県	下大崎群島（しもおおさき）	三角島（みかどじま）	呉市	61人	34人	16人	28人	64.6%	内海	5	1.25	（今回新規）
		斎島（いつきしま）	〃	18人	15人	12人			内海	5	10.8	
愛媛県	越智諸島（おち）	鵜島（うしま）	今治市	33人	23人	19人	26人	49.0%	内海	7	1.5	猶予
		津島（つしま）	〃	18人	13人	7人			内海	4	4.0	
	来島群島（くるしま）	小島（おしま）	今治市	25人	11人	7人	32人	57.9%	内海	9.5	1.8	（今回新規）
		来島（くるしま）	〃	23人	15人	14人			内海	10	0.9	
		馬島（うましま）	〃	25人	20人	9人			内海	6	3.8	
		比岐島（ひきじま）	〃	3人	3人	2人			内海	-	-	
	青島（あおしま）	青島（あおしま）	大洲市	19人	17人	5人		73.7%	内海	2	13.5	猶予
宮崎県	南那珂群島（みなみなか）	大島（おおしま）	日南市	11人	1人	2人	11人	69.4%	外海一部	4	3.4	猶予
		築島（つきしま）	串間市	25人	9人	9人			外海一部	-	-	
鹿児島県	桂島（かつらじま）	桂島（かつらじま）	出水市	13人	8人	12人		7.7%	外海一部	-	-	猶予
	新島（しんじま）	新島（しんじま）	鹿児島市	4人	0人	2人		50.0%	内海	3	1.7	猶予

赤字：基準値未満

対象地域の点検内容

- 点検対象となる10地域について、「離島指定基準の運用に関する留意事項１」に基づき、状況を確認
- 点検対象地域については、各地域の今後の振興の方針等を確認のうえ、判断

〇現地調査結果を基に今後の振興の方針等を確認。
令和5年10月から11月にかけて、10地域の現地調査を実施。

- 令和5年10月25日　下大崎群島（三角島、斎島（広島県呉市））
- 令和5年10月30日　桂島（鹿児島県出水市）
- 令和5年10月31日　新島（鹿児島県鹿児島市）
- 令和5年11月5日　犬島（岡山県岡山市）
- 令和5年11月6日　児島諸島（松島、六口島（岡山県倉敷市））
  南那珂群島（大島（宮崎県日南市））
- 令和5年11月7日　南那珂群島（築島（宮崎県串間市））
- 令和5年11月14日　越智諸島（鵜島（愛媛県今治市））
- 令和5年11月15日　来島群島（来島（愛媛県今治市））、青島（愛媛県大洲市）
- 令和5年11月29日　小島（北海道厚岸町）

〇確認項目

- 地域概要（対象離島地域の諸元、現状と課題等）
- 振興方針、振興による成果目標
- 市町における全体計画の中での位置づけ
- 振興策（ハード・ソフト対策）の実績、見込み、実施・評価体制

小島　現地視察概要

視察の概要

日程：令和5年11月29日（水）
視察委員：矢岡 俊樹 専門委員
対象地域：小島（北海道厚岸町）　※当日は時化により上陸できなかった

地域の概要

島名	面積（㎢）	人口（R2）	人口減少率（H22→R2）	寄港回数（回／日）	航路距離（km）	主要産業
小島	0.05	8人	38.5%	－	－	1次産業

・小島は本土から南方0.9kmの厚岸湾口に所在し、平らな島で南東部に標高28mの崖がある。面積は0.05km2、周囲0.9kmの島であり、令和3年に厚岸霧多布昆布森国定公園（厚岸町、釧路町、浜中町、標茶町）に指定されている。5月-8月にかけては北海道東部特有の濃霧の影響を受け日照時間は短い。
・コンブ漁の時期（5月～10月）のみ島で居住し、冬期には全戸が本土へ移動。（平成12年頃までは通年島で生活している島民もいた）
・定期航路はなし、買い物時などは自家用船で床潭港に停泊するため、観光客の入込はない。また、島に漁港等がないため船を直接浜に着けている。
・小島は島民全員がコンブ漁を営んでおり、小規模な形態であるが、好漁場であり生産性は高い。
・昭和50年に廃校になった校舎を集会所として活用。
・島内に医療機関及び医療従事者はいないため、本土へ通院。
・買い物は床潭港へ船で渡り、港に置いている車等を利用している。
・水道（海底送水管）、電気（海底ケーブル）、通信環境等の問題は無い。

小島全景

本土から見た小島

小島　現地視察概要

現地視察結果概要等

・主要産業は漁業（コンブ漁）で、全戸で営んでおり、経営形態は小規模であるが、本土の漁業者と比較して好漁場を確保できることや１日に多くの回数を水揚げできることから、生産効率が高く、厚岸町全体での１経営体あたりのコンブ漁獲高に対し、小島は2倍近く（5.06百万円）の漁獲高を上げている。島民がコンブ漁の町全体での出漁可否の判断を任されるなどの重要な役割も担っている。
更に安定した水産業の振興を図るため、昆布漁場改良（雑海藻駆除）や漁場環境調査などの継続的な支援やふるさと納税返礼品に活用するなど、コンブのPR、販売促進を図る。
これまでに、域学連携においてコンブ漁の体験を通して地域の大学生との交流を実施。
・現在、厚岸蒸留所におけるウイスキーの熟成庫の1つとして、廃校になった小中学校の校舎の活用を検討されており、遊休施設の活用、関係（交流）人口の創出が期待されている。
・島民の生活環境を確保するため、波浪などによる海岸浸食の防止対策等を道が実施。

（所見）
・今後は、現地視察の中でも話のあった町特産ウイスキー熟成庫の設置検討や安定したコンブ漁の振興策の実施など島民と協議しながら、関係人口の創出に向けた取組を進めることが重要と考える。

島内の状況
（厚岸町youtubeより）

コンブ漁漁船の出漁の様子
（厚岸町youtubeより）

地域とのヒアリングの様子

犬島　現地視察概要

視察の概要

日程：令和5年11月5日（日）
視察委員：矢ケ崎 紀子 特別委員
対象地域：犬島（岡山県岡山市）

地域の概要

島名	面積（㎢）	人口（R2）	人口減少率（H22→R2）	寄港回数（回／日）	航路距離（km）	主要産業
犬島	0.54	36人	33.3%	6～8	2.5	3次産業

・岡山県岡山市東南端、宝伝・久々井地区の約2.2km沖合に位置する。
・朝日漁港－犬島港航路は、距離約2.5km、所要時間10分、6～8便／日。
・標高は最高で約30m、平地は少なく農業には適さない。地質は主に花崗岩であるが、古くからの採石により、地形は変形し、各地に溜池化した採石跡地が見られる。気候は温暖少雨の瀬戸内海気候である。
・集落は、犬島港から西岸にかけて集中しており、その他は、採石場、畑、山林及び東岸部の精錬所跡地・発電所跡地からなっている。平成11年には、精錬所跡地が「近代化産業遺産」に認定され、また、精錬所跡地を組み込んだ美術館が平成20年に開館した。
・平成22年から3年毎に開催されている「瀬戸内国際芸術祭」の会場の一つとなっているほか、島内には空き家等を活用したギャラリースペース「犬島「家プロジェクト」」も展開されている。
・令和4年度の観光入り込み客数は約2万人。
・診療所には、週1回、医師会を通じ本土から来島。学校は船で通学。
・買い物は、船で本土に渡るほか、民間（生協）が本土と同様のサービスを実施。
・水道（海底送水管）、電気、通信環境等の問題は無い。
・光回線が整備され高速通信が可能。

犬島全景

犬島自然の家

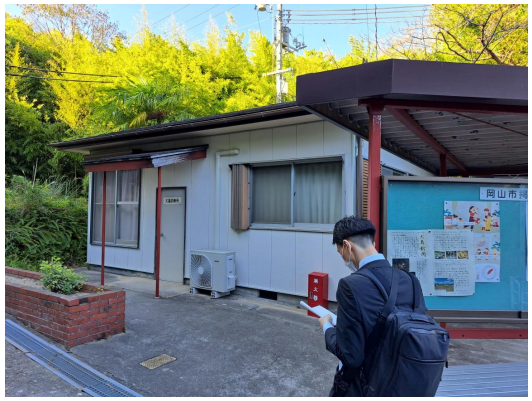
犬島　現地視察概要

現地視察結果概要等

・県外からの移住者と島民を構成員とした一般社団法人「犬島ととと倶楽部」が2022年に設立され、犬島と島外を繋ぐ取組が行われている。
　主な取組として、関西大学、関西学院大学、東京大学、ノートルダム清心女子大学との繋がりを生かしたワークショップイベントなどの開催、映画撮影、ライブイベント、ロータリークラブとの窓口的な事務を行っている。また、島にお土産がないので、地元の方と協力し、無人直売所にてお茶などを販売。
・島の課題として、宿泊施設が少ないことや、観光案内所などが無いことがある。
・観光客は徒歩で島内を散策するので、島民との交流はある。
・振興策（ハード対策）として、桟橋・護岸整備、光回線の整備などを実施。
　光回線により高速通信が可能となり、インターネットを活用した仕事の利便性が向上。
・オンライン健康相談などの生活環境の取組も実施。
・航路補助、診療所への医師派遣、通学補助などの支援を実施。
・県が実施する「小中学生離島の魅力発見・発信事業」は犬島自然の家を対象。

（所見）
・今後は、現地視察でも話のあった観光情報の発信や民泊など地域・自治体が連携し、交流人口、関係人口の拡大に向けた取組を進めることが重要と考える。

犬島キャンプ場


診療所

移住者が経営するカフェ

犬島ととと倶楽部が運営する直売所

犬島「家プロジェクト」F邸

児島諸島　現地視察概要

視察の概要

日程：令和5年11月6日（月）
視察委員：矢ケ崎 紀子 特別委員
対象地域：松島、六口島（岡山県倉敷市）

地域の概要

島名	面積（㎢）	人口（R2）	人口減少率（H22→R2）	寄港回数（回／日）	航路距離（km）	主要産業
松島	0.08	4人	133.3%	―	―	3次産業
六口島	1.03	6人	40.0%	―	―	

・岡山県倉敷市南部に位置する2島で構成される瀬戸内海の離島。
・定期航路がないことから、本土との往来は自家用漁船を利用（所要時間：15分程度）している。
・島に医療機関はなく、必要に応じて自家用船により本土の医療機関を受診している。
・松島の居住者は1名のみ。他の島民は住民基本台帳上は松島だが、諸事情により本土に居住している。
・松島では民宿1施設による観光産業が主産業となっている。
・六口島には海水浴場があり、民宿2施設による観光産業が主要産業となっている。そのうち1事業者が小規模な水産業（海苔養殖・加工）を営んでいる。
・買い物は本土の店舗まで行く必要がある。
・水道（六口島は井戸水）、電気、通信環境等の問題は無い。

松島全景

六口島全景

児島諸島（松島） 現地視察概要

現地視察結果概要等

・下津井地区では地域の魅力を活かしたまちづくりの機運（住民、民間、市民団体等）が高まっており、平成30年に鷲羽山・下津井まちづくり推進協議会を設立。協議会内にある複数の部会の一つとして、旧松島分校活性化部会があり、一般社団法人松島分校美術館において、アーティストの滞在制作や教育系団体の島内活動（学外授業等）のサポートを実施。福祉事務所とも連携し、定期的な活動を実施。
・アート的なイベントは閑散期をフォロー出来れば良いが、冬は海が荒れやすいので、どうしても、春・夏・秋に限定。
・地域おこし協力隊による民泊「マツシマ荘」が2023年より開業し、昔ながらの暮らしを求める利用者により、週末は予約で埋まっている。宿泊客は、県外が多く、関西・北陸・関東からも来島。県内は2～3割程度。
宿泊施設を増やしていきたいが、相続や年に1度は帰島するなどの理由で空き家を貸してもらえないのが課題。
・市として島民が住み続けていくことができるよう、島民の話を聞きながら、現状維持に努める。また、島単体ではなく江戸時代から北前船の寄港地として発展した倉敷市児島の下津井地区全体の活性化を進める上で、島民の話を聞きながら、両島の貴重な資源の活用の検討を進めていく。

（所見）
・今後も、現地視察の中でも話のあった民泊やアートイベントの実施など島民と協議しながら、関係人口を増やす取組を進めていくことが重要と考える。

松島分校美術館

マツシマ荘

島内の状況

児島諸島（六口島） 現地視察概要

現地視察結果概要等

・象岩（国指定天然記念物の奇岩）と砂浜を目的に観光客が訪れており、夏場は大阪の中学校が恒例行事（遠泳）のため来島。
・夏場は観光客で賑わうが、冬場はほとんど来ない。観光客の半分は県内から、残りは香川県から来島。
・繁忙期には民宿2施設の受入容量を超える数の観光客が来島。
・象岩までの道がもう少し良くなればと感じており、道の草刈りなどは島民で実施。
・島のPRは、観光客などの来島者の口コミが一番。
・市として島民が住み続けていくことができるよう、島民の話を聞きながら、現状維持に努める。また、島単体ではなく江戸時代から北前船の寄港地として発展した倉敷市児島の下津井地区全体の活性化を進める上で、島民の話を聞きながら、両島の貴重な資源の活用の検討を進めていく。

（所見）
・今後も、現地視察の中でも話があったように宿泊施設等の受入容量に課題もあることから、島民と協議しながら、これまでと同規模でイベントを実施し、島に興味を持つ関係人口を増やす取組を進めることが重要と考える。

象岩

象岩亭前の砂浜

民宿「象岩亭」

下大崎群島　現地視察概要

視察の概要

日程：令和5年10月25日（水）
視察委員：小田切 徳美 特別委員、鳥居 享司 専門委員
対象地域：三角島、斎島（広島県呉市）

地域の概要

島名	面積（㎢）	人口（R2）	人口減少率（H22→R2）	寄港回数（回／日）	航路距離（km）	主要産業
三角島	0.78	16人	73.8%	5	1.25	3次産業
斎島	0.70	12人	33.3%	5	10.8	

・三角島は周囲約4km の島で、標高110.3mの主峰から山裾が海岸線に及んでいる。主要作物は柑橘類で、住民及び島外からの出作農家により急傾斜地の多い園地で栽培が行われている。
・斎島は周囲約4.3km の島で、北側に集落が1つあり、みかんなどの耕作地がわずかに見られる。また、島の周辺海域でタイの一本釣りやスズキ、アジの漁が行われている。
・高齢化も著しく、高齢化率は、三角島で75.0%、斎島では91.7%となっている。いずれの島においても、集落維持が困難な状況にあり、集落機能の維持、強化が課題となっている。
・三角島及び斎島については、久比港を起点に、それぞれ第三セクターによる航路を設けている。この2つの航路はいずれも住民にとって唯一の航路であり、国・県・市の補助を受けて運航している。
・地域の医療は、安芸灘地域への保健師の配置や下蒲刈にある公立病院により担われており、救急艇（1隻）を大崎下島の立花港に配備し、緊急時対応。
・買い物は久比（大崎下島）や広（本土）までいっている。
・水道、電気、通信環境等の問題は無い。光回線が整備され高速通信が可能。

三角島全景

斎島全景

下大崎群島（三角島） 現地視察概要

現地視察結果概要等

・島民以外も定期的に帰島し、適切に管理しており、空き家自体は少ない。
・民間事業者（ナオライ）が、三角島において、無農薬で栽培したレモンを使った事業を実施中。農業体験も行っており、多いときで一度に5人程度が来島。
・現状、耕作放棄地が拡大しているものの、営農（みかん・レモン栽培）も行われており、農道の管理も島民が実施。
・観光客は一定程度来島しており、主に週末の釣り客が多く、夏場は海水浴やバーベキューのために来島。

（所見）
・今後は、現地視察の中でも話のあった民間事業者と協働しながら体験型観光コンテンツの開発などにより島に来てもらえるような体制を構築し、関係人口の創出に向けた取組を進めることが重要と考える。

島内の状況①

島内の状況②

三角島集会所

レモンの栽培状況

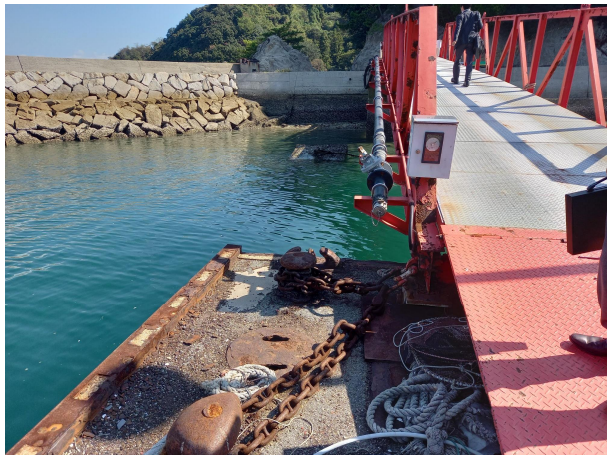
造船所跡のメガソーラー

下大崎群島（斎島） 現地視察概要

現地視察結果概要等

・呉市役所及び地元住民団体の代表等で構成する豊浜町まちづくり協議会が主体となって「斎で島コン」、「斎島海岸清掃事業」等の事業を実施し関係人口や定住人口の創出に努めている。
・斎島においては離島活性化交付金を活用し島外住民と共に海岸清掃を実施し、島内集落だけでは困難な環境維持に取り組んでいる。
・島内の蛭児神社は外国人観光客も訪れている。
・夏休みは、島にゆかりのある人が30～40人戻ってくる。
・島内の空き家は定期的に帰島するため手入れされており、本当の空き家は少ない。
・小学校跡地に整備した「あびの里いつき」（宿泊・温浴施設）は現在、指定管理者を募集したが、なり手がいないため休止中。休止に伴い、施設が老朽化しているため、運営再開には大規模な修繕が必要。

（所見）
・今後は、現地視察の中でも話のあった「あびの里いつき」の再開も含めて、地域との交流拠点として来島者に滞在してもらうなど関係人口の創出に向けた取組を進めることが重要と考える。



島内送水管

あびの里いつき（斎島※休館中）

清掃後の海岸

島内の状況

越智諸島　現地視察概要

視察の概要

日程：令和5年11月14日（火）
視察委員：山下 東子 特別委員、矢岡 俊樹 専門委員
対象地域：鵜島（愛媛県今治市）

地域の概要

島名	面積（㎢）	人口（R2）	人口減少率（H22→R2）	寄港回数（回／日）	航路距離（km）	主要産業
鵜島	0.76	19人	42.4%	7	1.5	1次産業
津島	1.43	7人	61.1%	4	4.0	

・鵜島は愛媛県今治市に属し、大島と伯方島との間に位置しており、大島の宮窪港から北東1.5kmの海上にある。大島（本島）−鵜島−伯方島（本島）を民営船が1日7往復しており、離島航路補助事業の対象となっている。
・津島は愛媛県今治市に属し、大島の北西4.0kmの海上にある。今治（本土）−津島を民営船が1日1往復。津島−大島（本島）を市営船（民営船に委託）が1日3往復しており、離島航路補助事業の対象となっている。
・島内に教育機関はなく、児童・生徒もいない。集会所は1箇所ある。
・津島の主要産業は柑橘栽培、鵜島の主要産業は農業であるが、高齢化や後継者不足により衰退している。
・島内に医療機関及び医療従事者はいないため、大島へ通院している。救急時は救急艇を使用するが、荒天時は漁船を利用することもある。
・買い物は吉海（大島）や尾浦港（伯方島）へ船で渡り、港に置いている車等を利用している。
・水道（鵜島：給水船、津島：簡易水道）、電気、通信環境等の問題は無い。

鵜島全景

鵜島の集会所

越智諸島（鵜島） 現地視察概要

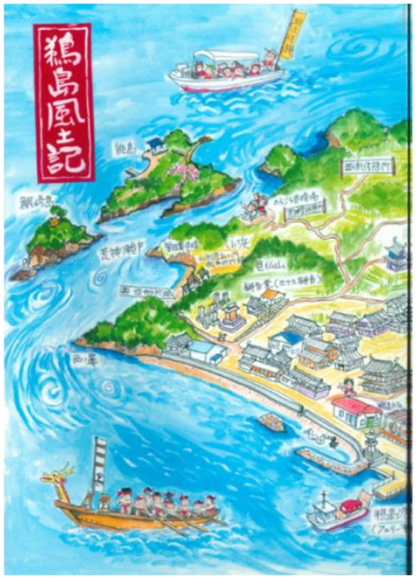
現地視察結果概要等

・歴史のある島であり、マスコミに売り込んでおりテレビでも紹介されている。
・観光客の為に、鵜島公式LINE・サイクリング用の地図・鵜島風土記などを作成し無料配布を行っており、イベントの開催や刊行物の作成などは、NPOにも協力してもらっている。
・島内をサイクリングに来る観光客や自分のルーツを探しに訪れる人などが来島。来島する観光客のために定期船の待合所を改修して、カフェとして運営。現在は月2回の営業。
・空き家は15軒ほどあるが、近くに住んでいる人は毎週、遠くに住んでいる人でもお盆、正月には帰島するため手入れされており、本当の空き家は1軒のみ。

（所見）
・今後も、現地視察の中でも話のあった観光イベントの開催や刊行物の作成、カフェの運営など交流人口、関係人口の維持・拡大に向け取組を進めることが重要と考える。

島内の状況

島内案内図



鵜島風土記

カフェ（待合所）

カフェ内の状況

来島群島　現地視察概要

視察の概要

日程：令和5年11月15日（水）
視察委員：山下 東子 特別委員、矢岡 俊樹 専門委員
対象地域：来島（愛媛県今治市）

地域の概要

島名	面積（㎢）	人口（R2）	人口減少率（H22→R2）	寄港回数（回／日）	航路距離（km）	主要産業
小島	0.50	7人	72.0%	9.5	1.8	1次産業
来島	0.04	14人	39.1%	10	0.9	
馬島	0.50	9人	64.0%	6	3.8	
比岐島	0.30	2人	33.3%	―	―	

・小島、来島、馬島は愛媛県今治市に属し、それぞれ1.8km、0.9km、3.8kmの海上にある。波止浜港−来島港−小島港−馬島港を民営船が1日9.5往復している。
・比岐島は愛媛県今治市に属し、10.0kmの海上にある。定期航路はなく、自家用船による。
・島内に教育機関はなく、児童・生徒もいない。小島、来島、馬島には集会所が1箇所ある。
・小島の主要産業は漁業、来島、比岐島の主要産業は柑橘栽培と漁業、馬島の主要産業は花き栽培と漁業で、いずれも高級魚の一本釣りが中心である。
・島内に医療機関はなく、定期船か自家用船で本土へ通院している。買い物も同様に本土の店舗まで行く必要がある。
・小島、来島、馬島では水道（海底送水管）、電気（電線）、通信環境等の問題は無い。比岐島は井戸水を使用、電気は自家発電。

来島全景

来島の集会所

来島群島（来島） 現地視察概要

現地視察結果概要等

・来島を含む芸予諸島が日本遺産に指定されており、観光客が来島。また、釣り客も観光客と同じくらい来島。
・島内には桟橋跡の柱穴や心月庵などの史跡があるが、観光できる体制（ハード面も含む）が整っていないことが課題。
・定期航路の維持のため観光客の来島は重要。併せて、観光客のマナー向上の取り組みも必要。
・島内の空き家はたまに戻ってくる家もあれば戻ってこない家もある。戻ってくる家は手入れがされており、家を売ってもいいという家主もいる。
・昨年、島出身者がUターンし、漁業を営んでいる。

（所見）
・今後は、現地視察の中でも話のあった観光振興だけではなく、高校生や中学生などにボランティアで来てもらい、若い人とのつながりを作るなど関係人口の拡大に向けた取組を進めることが重要と考える。

観光休憩所

心月庵

八千矛神社

島内の状況

青島　現地視察概要

視察の概要

日程：令和5年11月15日（水）
視察委員：山下 東子 特別委員、矢岡 俊樹 専門委員
対象地域：青島（愛媛県大洲市）

地域の概要

島名	面積（㎢）	人口（R2）	人口減少率（H22→R2）	寄港回数（回／日）	航路距離（km）	主要産業
青島	0.49	5人	73.7%	2	13.5	1次産業

・愛媛県大洲市の長浜港から北に13.5kmの伊予灘のほぼ中央に位置する離島である。
・本土の長浜と青島を結ぶ唯一の交通機関として定期船「あおしま」が就航しており、1日2往復している。令和4年度の運航回数は524回。
・平成25年9月頃、猫の島としてメディアに紹介されて以降、観光客が増大した。島民の日常生活を圧迫する時期もあったが、地元住民の生活環境づくりに重点を置くことにより、現在は落ち着いている。令和4年度の観光客は、新型コロナの影響もあり、3,500人程度。
・アジやハマチ、メバル等の漁業、ヒジキの採藻業が主要産業となっている。
・地域内に医療機関、介護サービス事業所がなく、市の単独予算にて航路運賃相当額を助成している。介護サービス分については利用実績はない。
・食料等の生活物資については、定期船等を利用し本土へ渡り調達している。
・水道、電気、通信環境等の問題は無い。

青島全景

ネコの餌やり場

青島　現地視察概要

現地視察結果概要等

・観光客はコロナ前から微減していたがコロナで一気に減少し、現在はコロナ前の水準に戻っている。
・現在は、パンフレットによるPRや島外からの定期的なボランティアの来島により、猫の世話に対応している。
・島内のキャンプ場は老朽化によりシャワーやトイレが使えず、利用者自らがテントから食材まで調達する必要があり、現在は、年に数組が利用する程度。
・定期的に帰ってくる人も最近はいない。島に休むところがないので帰ってきても日帰りとなる。
・現在の島民はUターンであるが、最近の移住者はいない。夏場だけ元島民が県外からきてカフェを運営。
・本土の農業者が島内の土地を借りて漢方薬の原料となる八朔の栽培を行っており、収穫や草刈り等で来島。
・市として県立長浜高校の生徒が「長高水族館」に青島コーナーを作るなどして島と交流が出来ればと考えている。
また、島内に宿泊や休憩できる施設がないため、青島コミュニティセンターを拠点とした整備が出来ればと考えている。

（所見）
・今後は、現地視察の中でも話のあった高校生などの学生との交流や青島コミュニティセンターを拠点とした整備など関係人口の拡大に向けた取組を進めることが重要と考える。

キャンプ場

青島コミュニティセンター

八朔の栽培状況

島内の状況

南那珂群島　現地視察概要

視察の概要

日程：令和5年11月6日（月）～7日（火）
視察委員：鳥居 享司 専門委員
対象地域：大島（宮崎県日南市）、築島（宮崎県串間市）

地域の概要

島名	面積（㎢）	人口（R2）	人口減少率（H22→R2）	寄港回数（回／日）	航路距離（km）	主要産業
大島	2.08	2人	81.8%	4	3.4	1次産業
築島	0.24	9人	64.0%	―	―	

・南那珂群島は大島（日南市）と築島（串間市）で構成され、有人国境離島法における有人国境離島地域となっている。
・日南海岸国定公園国定区域内にあり、起伏に富んだ海岸線や亜熱帯植物の自生が見られるが、2島とも急峻な山地に覆われており、居住区域は限定的である。
・大島は日南市南郷町の中心部から東方約2.5kmの日向灘にあり、対岸の目井津港から市営定期船が、1日4往復運航している。島内は公共交通機関がなく、市道が約5.1km整備されている。
・築島は対岸の舳集落から約150mの海上に位置し、交通体系については、本土との間に定期航路はなく、漁船で往来している。また、島内で車両の利用はなく、道路は漁港に沿った短い臨海道路と集落に至る市道約100m及び集落内部を巡る私道のみとなっている。
・大島に病院はなく市営旅客船等を交通手段として本土の医療機関を受診している。築島では無医地区診療を行っている。
・買い物は本土の店舗まで行く必要がある。（本土側に車を駐車）
・水道、電気、通信環境等の問題はないが、大島の一部に携帯電話が使用できないエリアが存在。

大島　竹之尻港

築島　築島港

南那珂群島（大島） 現地視察概要

現地視察結果概要等

・平成27年に元島民たちを中心とした「大島プロジェクト会議」が組織化され、島内の草刈り（年５～６回）や市の補助金を活用した周遊イベント（植栽ツアー・灯台見学ツアー）を実施。アサギマダラやツマベニチョウが飛来する島として、蝶を増やす活動をしており、植栽ツアーもその一つ。
・民間事業者が島内に宿泊滞在施設（グランピング、レストラン）を建設する計画が進行中であり、島内にヘリポートを設置し、観光客数の増加を目指している。
・島内宿泊施設として、コテージ・キャビンがあり、スキューバダイビングや釣りを目的とした来島者のほか、日帰りで灯台や蝶の見学を目的とした来島者がいる。
・島内の市道は整備済みで、環境整備を大島プロジェクト会議が実施。
・中山間地域の修学旅行誘致などの滞在型体験学習の実施を計画している。

（所見）
・今後は、既存の取組に加え、現地視察の中でも話のあった民間事業者による宿泊滞在施設の整備や滞在型体験学習の実施など交流人口、関係人口の拡大に向けた取組を進めることが重要と考える。

島内道路・水道管

スキューバダイビングの着替え場所

コテージ

キャビン

ヘリポート建設地

南那珂群島（築島） 現地視察概要

現地視察結果概要等

・関係人口として、元島民が墓参りや草刈りで来島。また、島外の方が空き家を購入して知人を連れて島を訪れているほか、会社の保養所として使用している例もある。
・宮崎市内の若者家族が島内の畑付き家を購入し、現在は2拠点居住で使用しており、将来的には島での暮らしを希望。
・空き家は2拠点居住の使い方が出来ており、本当の空き家は比較的少ない。ただし、定期航路が無いため、移住の第一条件は船舶免許の取得。
・観光客の来島は大歓迎（ただし、最低限のマナーは守ってほしいとのこと）。
・産業は、漁業（伊勢エビ漁・遠洋業業）が中心で、対岸の漁港に水揚げ。水産資源確保のため、稚魚放流を継続的に支援。
・民間事業者により釣りを含めた海洋開発が検討されており、現在は中止しているが開発は諦めていない。

（所見）
・今後は、既存の取組に加え、現地視察の中でも話のあった民間事業者による海洋開発との協働など関係人口の拡大に向けた取組を進めることが重要と考える。

島内の状況

会社保養所

集会所（旧築島分校体育館）

島内公園

桂島　現地視察概要

視察の概要

日程：令和5年10月30日（月）
視察委員：図司 直也 特別委員
対象地域：桂島（鹿児島県出水市）

地域の概要

島名	面積（㎢）	人口（R2）	人口減少率（H22→R2）	寄港回数（回／日）	航路距離（km）	主要産業
桂島	0.33	12人	7.7%	―	―	1次産業

・鹿児島県出水市に属し、本土の米ノ津港から北北西約7.5km、野口漁港から北2.5kmの海上に位置する離島。
・定期便はないが、釣りが好きな観光客なども訪れている。
・桂島（全島民が居住）、小島、前島の3島で構成されており、3島は防波堤により繋がっている。
・水産業が主な基幹産業であり、チリメンジャコ漁は人員不足により休業しているが、一本釣りや地引き網による漁（アジ・イカ）を営んでおり、出水市本土に水揚げしている（昔は、半農半漁で米以外は全て島内で賄われていた）。
・救急は本土の病院へ搬送。島内にヘリポート（県設備）が整備されているが、使用実績なし。
・買い物は本土の店舗まで行く必要がある。（本土側に車を駐車）
・水道、電気、通信環境等の問題はないが、家の中では携帯電話が繋がりにくい。

桂島港

ヘリポート

桂島　現地視察概要

現地視察結果概要等

・定期航路は昔から無く、公共施設等が破損した場合は、島民が本土の港まで、作業員を迎えに行っている状況。
・主要産業は漁業（一本釣り・地引き網）で北さつま漁協出水支所に出荷。（現在、ちりめん漁は休業）
種苗放流や漁場の管理・改善、産卵場・育成場の整備等を継続的に支援。
・人口減少により島内に学校がないことが問題。
（休校中の学校校舎は取り壊さずに現存し、島民で活用）
・本土から釣りやキャンプ目的の来島者があり、マナー向上の取組が必要であるが、観光客（主に釣り客）の来島は大歓迎。

（所見）
・今後も、現地視察の中でも話のあった漁業振興策の実施や観光客との交流など関係人口の拡大に向けた取組を進めることが重要と考える。

石切り場

前島（北側）の状況

米ノ津東小・米ノ津中学校桂島分校（休校中）

校舎内の状況

島内の状況

新島　現地視察概要

視察の概要

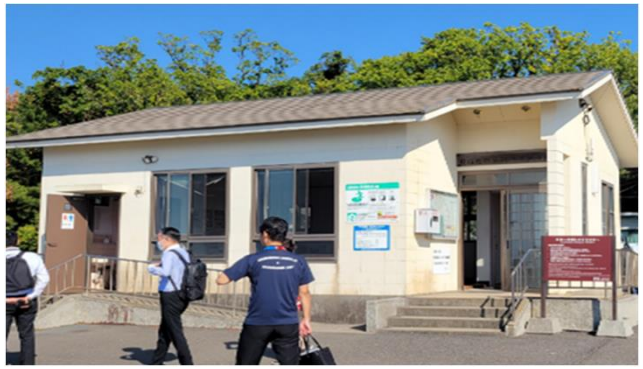
日程：令和5年10月31日（火）
視察委員：図司 直也 特別委員
対象地域：新島（鹿児島県鹿児島市）

地域の概要

島名	面積（㎢）	人口（R2）	人口減少率（H22→R2）	寄港回数（回／日）	航路距離（km）	主要産業
新島	0.13	2人	50.0%	3	1.7	3次産業

・錦江湾内にある桜島の北東約1.5kmに位置し、鹿児島市に属する離島。
・桜島・錦江湾ジオパークのジオサイトの一つで、霧島錦江湾国立公園にも指定されており、民間事業者等によるツアーなどが行われている。
・島内の環境保全のボランティア活動が盛んで来訪しやすい環境が維持されている。
・主要産業は第3次産業（飲食店・宿泊施設等）となっている。
・買い物は本土の店舗まで行く必要がある（本土側に車を駐車）。
・水道（海底送水管）、電気（海底ケーブル）、通信環境等の問題は無い。

新島全景



公民館新島分館

新島　現地視察概要

現地視察結果概要等

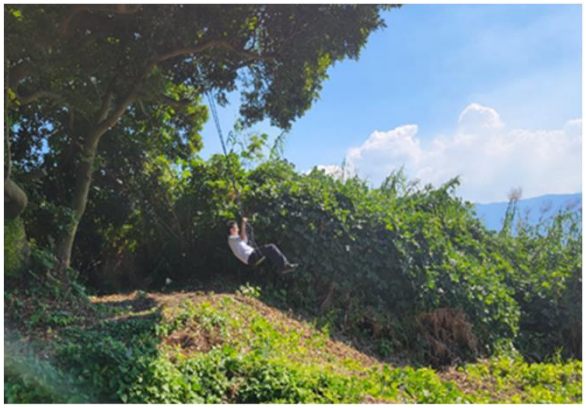
・学校跡地はキャンプ場整備の計画があり、過去に整地を実施したが、コロナ禍に加え、海岸沿いの一部崩落により、安全面での課題が発生したため、現在は計画を休止中。
・島内の神社をNPOがボランティアで再興し、神社の管理をきっかけに夫妻が令和元年に移住。
・観光客のほか、鹿児島大学教授やニュージーランドの地質学者が研究のために来島。
・将来的には世界ジオパークの登録を目指している。
・鹿児島市の観光目的は、1位食事、2位自然景観との結果を踏まえ、自然景観を生かした観光を考えている。また、外国人のアドベンチャー（非日常体験）へのニーズの高まりを受けて、市としても様々なツールを活用し、体験型ツアーの周知を実施。
・移住に際しては、土地の所有者（相続）の問題がある。

（所見）
・今後も、現地視察の中でも話のあった自然景観を生かした観光（体験型ツアー）など交流人口、関係人口の拡大に向けた取組を進めることが重要と考える。

植樹された防風林

NPO法人が再興した神社

島内を東西に結ぶ道路


NPO法人が設置したブランコ

対象地域における今後の振興方針及び点検結果

都道県名	指定地域名	島名	市町名	今後の振興方針及び点検結果
北海道	小島	小島	厚岸町	（自治体による今後の振興方針） ・島の主要産業である漁業の生産高は平成20年度以降減少傾向にあるため、産業基盤の整備等により生産性が高く安定した水産業の振興を図ることで、夏場は島・冬場は本土という独特の生活スタイルを維持しながら、離島の自立的発展を促進。 ・町、漁協等が連携して、ブルーカーボンの推進にも大きく寄与する小島付近を中心とする良質な漁場の継承と漁業従事者の維持確保に努めるとともに、ふるさと納税返礼品に活用するなどして小島の特産品であるコンブのPR、販売促進を図る。 ・波浪などによる海岸浸食の防止対策等により島民の生活の安定を図り、半定住も含めた人口の拡大を目指すとともに、町特産ウイスキーの熟成庫の島内設置に向けた検討を継続するなど、関係人口の創出を図る。 **（点検の結果）** **・コンブ漁の拠点として重要な役割を果たしていることが確認することができた。また、特産のコンブを活かした交流の拡大、町特産ウイスキー熟成庫の設置検討など、新たな動きも見られ、関係人口の創出に向けた今後の取組も期待できる。**
岡山県	犬島	犬島	岡山市	（自治体による今後の振興方針） ・本土側の関係機関等と連携した医療・福祉・介護サービスの充実に努めるとともに、交通アクセスの確保や令和4年度に提供が開始された超高速ブロードバンドサービスの様々な分野での活用などを検討し、住民及び来島者の利便性を向上させる。 ・住民の安全・安心で快適な暮らしとのバランスを保ちながら、文化芸術活動の継続やイベント開催などへの支援を通じた取組を行うことにより、文化・芸術の島としての魅力向上を図り、交流人口の増加や関心の醸成などにつなげていく。 ・キャンプ場、犬島自然の家などの既存施設や優れた自然条件、現代アートなどの資源を有効活用した観光、レジャー、体験学習など多様な活動ができる環境づくりを検討・推進し、交流人口の増加や関心の醸成などにつなげていく。 **（点検の結果）** **・移住者による一般社団法人の設立をはじめ、交流人口・関係人口を増やす取組が着実に進められているほか、新たな光回線が整備され、今後の移住・定住の可能性の広がりを確認することができた。また、HPなどのSNSを活用した情報発信などの交流人口・関係人口をさらに増やそうとする試みも見られ、今後の取組も期待できる。**

対象地域における今後の振興方針及び点検結果

都道県名	指定地域名	島名	市町名	今後の振興方針及び点検結果
岡山県	児島諸島	松島	倉敷市	（自治体による今後の振興方針） ・各離島の面積は小さく、また、国有林野の面積が大半を占める離島もあり、本土に近接していることから、定期航路がないこともあって、深刻な人口減少、高齢化により、観光業等の主要産業だけでなく、日常生活面においても、担い手不足が深刻な問題となっている。また、東日本大震災で離島が大きな被害を受けたことを踏まえて、津波を想定した災害対策を講じる必要がある。様々な状況を想定した上で、諸般の施策を講じ、本地域の安心安全な地域づくりに努める。 **（点検の結果）** **・松島は、地域おこし協力隊による民泊開業や松島分校美術館を活用したイベントの実施などの島外から人を呼び込むための取組及び、六口島は、民宿を経営している島民による清掃活動などの島外からの観光客の来島のための取組が確認できた。また、島民と協議しながら、島に興味を持つ関係人口を増やそうとする姿勢も見られ、今後の取組も期待される。**
		六口島	〃	
広島県	下大崎群島	三角島	呉市	（自治体による今後の振興方針） ・三角島及び斎島は、日常生活機能を豊島や大崎下島に依存していることから、航路など生活利便性の維持・向上に努めるとともに、農業の振興、島の豊かな自然を生かした他地域との交流促進を図りながら、安心して暮らせる地域づくりを目指す。 **（点検の結果）** **・三角島は、現島民以外も定期的に帰島し家屋の管理が適切に行われていること及び、斎島は、本土のまちづくり協議会が主体となって島の清掃活動が行われているなど関係人口や定住人口を創出する取組が確認できた。また、三角島では民間事業者と協働した取組など、更なる関係人口の創出に向けた、今後の取組も期待できる。**
		斎島	〃	
愛媛県	越智諸島	鵜島	今治市	（自治体による今後の振興方針） ・高齢化に伴う労働力、後継者不足のため、主産業である農業の低迷が続いている。これ以外にも、水道施設の老朽化や定期連絡船の確保などの課題を有している。 ・今後は、「癒やされる快適な生活空間」の実現をめざし、水資源の確保や生活排水処理の充実などの住みよい生活環境の創造に引き続き取り組むとともに、地域の特性である豊かな自然環境を活かし、若者の定住と人口の増加につなげる。 **（点検の結果）** **・鵜島は、現島民以外も定期的に帰島し家屋の管理が適切に行われていること及び、NPOと協力した、各種観光PRの取組についても確認することができた。また、カフェの運営やイベントの開催など、交流人口・関係人口の維持・拡大に向けた、今後の取組も期待できる。**
		津島	〃	

対象地域における今後の振興方針及び点検結果

都道県名	指定地域名	島名	市町名	今後の振興方針及び点検結果
愛媛県	来島群島	小島 来島 馬島 比岐島	今治市 〃 〃 〃	（自治体による今後の振興方針） ＜小島・来島＞ ・観光地への転換整備 ・来島の城址や小島芸予要塞軍など豊かな歴史資源を有しており、NHKスペシャルドラマ「坂の上の雲」放映により、波及効果もあり、今後、観光地としてどう転換整備を進めるか検討し、交流人口の拡大及び人口減少の防止を図る。具体的には、史跡の維持修復や住民意識の変革、アクセスとしての航路の充実等。 ＜馬島＞ ・観光地への転換整備 ・来島群島で唯一の宿泊可能な施設があり、観光客の受け入れ先として、また、しまなみ海道から徒歩で馬島に降りられる立地条件を活かした観光振興を検討する。具体的には、史跡の維持修復や住民意識の変革、アクセスとしての航路の充実等。 ＜比岐島＞ ・2名のみ旧今治市内との2拠点生活を行っている。今後、住民の意向を踏まえながら本土への全移転について、検討していく必要がある。 **（点検の結果）** **・来島は、漁業の拠点であるほか、島民が主体となった清掃活動・休憩所の維持管理など、島の歴史資源や釣りを目的とした観光客の受け入れのための取組が確認できた。島外の人たちとの連携などが新たな検討課題としてあがっており、今後、こうした取組が期待できる。**
愛媛県	青島	青島	大洲市	（自治体による今後の振興方針） ・青島は、本土近接型の小規模離島で周囲に同様の離島もなく、超高齢化した島であることから、島独自で自立的発展を遂げることは困難な状況である。このため、本土との連携を図りながら、島内道路の保全修理、生活用水の確保、医療及び緊急体制の確立、避難場所や避難経路の確保等の防災対策を重点的に行い、住民が安心して暮らせる地域づくりを目指す。 ・漁業だけでなく高齢者が安定した収入を得ることが出来るように、農協が中心となり、試験的に漢方薬の材料となる八朔の栽培を行っている。 ・主要産業である沿岸漁業維持のため、築いそや魚礁の設置等により漁場の造成を図る。 ・長浜自治会や長浜高校等、本土側の関係機関と連携しながら、島のPRや文化振興等を図る。 **（点検の結果）** **・観光パンフレット作成や本土からのボランティアの協力による猫を活かした観光振興の取組が確認できた。また、高校生などの学生との交流やコミュニティセンターの活用など、関係人口の拡大に向けた新たな取組の検討も見られ、今後の取組も期待できる。**

対象地域における今後の振興方針及び点検結果

都道県名	指定地域名	島名	市町名	今後の振興方針及び点検結果
宮崎県	南那珂群島	大島	日南市	（自治体による今後の振興方針） ・本土との航路の確保により島民生活の安定を図るとともに、島の景観や自然を生かした観光及び滞在型体験学習の実施による交流人口の拡大を図る。 ・定着性種苗の放流や人工漁礁の設置による漁場整備等、水産基盤の整備を図る。 ・本土との医療機関との連携及び搬送体制の確立及び防災対策の推進による安心・安全な生活環境の整備を行うことで島民の福祉の向上を図る。 **（点検の結果）** **・大島は、島民・元島民や島に関心がある人で構成されている大島プロジェクト会議による、道路の清掃などの維持管理及びイベントの開催などの来島を増やす取組、築島は、2拠点居住のための空き家の活用など、島の振興の取組が確認できた。また、大島では学生などの体験学習の誘致など、交流人口・関係人口の拡大に向けた新たな取組の検討も見られ、今後の取組も期待できる。**
		築島	串間市	
鹿児島県	桂島	桂島	出水市	（自治体による今後の振興方針） ・漁業者等による自主的な取り組みを支援しながら、周辺海域の好漁場や消費市場を近くに控えているなどの優位性を活かし、チリメンジャコ漁などの収益性の高い持続可能な沿岸漁業の振興を図り、漁業就業者数を維持し、人口減少の防止を目指す。 **（点検の結果）** **・種苗放流や漁場の管理などの漁業関係の産業振興の取組が確認できた。また、離島体験や離島の魅力発信など交流人口・関係人口の拡大に向けた取組の検討も見られ、今後の取組も期待できる。**
	新島	新島	鹿児島市	（自治体による今後の振興方針） ・地域住民が住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう、本土との交通手段である行政連絡船の維持・改善に努めるとともに、生活の安定及び福祉の向上を図る。 ・併せて、本地域は霧島錦江湾国立公園に指定され、豊かな自然環境や特色ある地形・地質を有していることから、ジオパークの取組などにおいて、地域資源の活用を図る。 **（点検の結果）** **・元島民が移住し、NPOと協働した植栽などの環境整備や体験型ツアーの周知などの観光振興の取組が確認できた。また、自然景観を生かした観光による交流人口・関係人口の拡大に向けた取組の検討も見られ、今後の取組も期待できる。**

本日の議論のポイント

議論のポイント

1. 今後の離島振興方針等を点検した結果、点検対象の10地域について、現行の離島振興計画期間中の離島振興対策実施地域の指定解除を停止することは妥当かどうか。

2. 現行の指定基準では、指定済み離島について、人口要件を満たさなくなった場合においても、今後の振興の方針等を確認のうえ、指定解除について停止することを検討するとなっているが、今回の人口要件を満たさなくなった離島地域の点検を踏まえれば、小規模な離島地域の振興について、改めて検討する機会として、点検の意義は大きいのではないか。

3. 今回の現地調査においては、特に定住人口の減少が著しい離島を対象として、こうした島々が抱える課題や取組の方向性を確認した。人口100人未満の離島が指定離島の約半数を占めるなど、離島の人口規模の縮小が進んでいる中で、定住人口の減少が著しく進む小規模な離島における今後の離島振興の方向性として、共通の示唆はないか。

今回の現地調査を踏まえた、小規模離島の今後の振興方針への示唆（案）

- 国勢調査人口が大きく減少した離島にあっても、元島民やその家族の往来、農業・漁業の拠点としての役割などが見られる。したがって、単に定住人口だけではなく、関係人口を含めて、離島の振興を考える必要があるのではないか。
- 人口が大きく減少した離島にあっても、現在のところは、島民と元島民の協力により家屋が適切に維持され、これまで整備されてきたインフラも適切に維持され活用されている。一方で、無人島化は、こうした島民の協力によって維持されてきた家屋・インフラの維持が困難となっていくことを意味する。したがって、島民が残っている早い段階から、島との関わり合いを持つ関係人口の醸成を進め、島民と関係人口が協力して、島の振興に取り組み、さらには定住人口の確保につなげていく仕組みづくりが必要ではないか。
- 関係人口から島に移住し定住人口へと発展していくためには、住まいの確保が重要である。小規模な離島にあっても、現段階では、普段は居住されていないが、維持されている家屋が多くある。まだ家屋が維持されている早い段階から、こうした家屋の活用をもっと進めるべきではないか。
- 交通、通信、水道、汚水・廃棄物処理などの島での日常生活に欠かせないインフラは、関係人口の醸成、交流人口の拡大、ひいては移住による定住人口の確保を進めていく上でも、新たな技術等も活用しつつ、適切な維持・管理が求められるのではないか。
- 小規模な離島における優良な取組の横展開が重要ではないか。特に、国・都道県・市町村が連携して、離島活性化交付金などを活用したソフト事業を積極的に展開すべきではないか。